

令和7年度

柿原小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 根拠を持って、自分の考えを表現することができる
- 他者の考えを受け入れながら、伝え合い、学び合える

校長

上岡 有里

学力向上推進員

筒井 美帆

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読みや整数の四則計算などの基礎的・基本的な知識・技能が身についている児童が多い。 ●漢字や九九などの基礎的・基本的な知識・技能の定着の差が大きいのが課題である。	・整数の四則計算を確実に行うことができる。 ・漢字を適切に使うことができる。 ・語彙を増やし、正確に文章を読んだり、書いたりすることができる。	・児童の実態に応じて、習熟度別のプリントや応用問題を用意することで、個に応じた学習が進められるようにする。 ・モジュール学習の時間を活用し、漢字や計算の小テストをくり返し行い、反復練習を大切にする。 ・タブレットドリルを活用する。 ・公式、既習事項などを教室に掲示する。 ・分からない言葉がでてきたら、自分で国語辞典を使い調べるようにする。	・どの学年もタブレットドリルを効果的に活用できている。 ・モジュールの時間を有効活用し、小テストを実施することができている。 ・わからない言葉や漢字は、辞書を使って調べる習慣がついてきている。 ・学力の個人差に対応するため、既習事項を掲示しておくようにする。 ・ケアレスミスが目立つ児童が多いので、ていねいに落ち着いて計算するように声かけする。		

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話形をもとに、自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる。 ●根拠をもとに、自分の考えを表現したり、友達と意見交流し、新しい考えをつくり出したりすることに課題がある。	・話し合い活動を通して思考を深め、問題解決に取り組むことができる。 ・根拠や理由をもとに、自分の考えを説明したり、文章に書き表したりすることができる。	・自分の考えを発表する機会を積極的に設けて、根拠をもとに言うことができるように指導する。 ・ペア・グループ活動を通して、伝える・聞く・感想を伝える・質問するなど多様な方法で友達と意見交流できるようにする。 ・話形や話し合いのモデルを示す。	・どの学年においても、ペアやグループ活動をたくさん取り入れている。 ・話し合い活動や自分の意見を伝えることが苦手な児童もいるので、司会などの役割を設けたり、台本を用意したりするなどして、発言の機会を増やしたり、話型や話し合いのモデルを示したりするようにする。		

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に真面目に向き合い、課題にも一生懸命取り組むことができる。 ●家庭学習や読書、苦手な学習内容の克服等に、計画的、継続的に取り組むことに課題がある。	・苦手な学習にも最後まで前向きに粘り強く取り組むことができる。 ・発達段階に応じた家庭学習や読書習慣を身に付けることができる。	・授業中にそれぞれの児童が活躍できる場面をつくったり、前向きな声かけを行ったりする。 ・教材研究をし、楽しくわかりやすい授業作りに取り組む。 ・自主学習については、積極的に紹介したり、見せ合ったりする機会を設けるなど友達と共有できるようにする。 ・生活チェック表を活用したり、保護者と連携をとったりしながら、家庭学習や家庭読書の習慣化を図る。	・自主学習に関しては、友達と共有し、高め合うことができている。 ・多くの児童が自主的に学習に取り組むための工夫を引き続き考えていく必要がある。 ・生活チェック表を実施する際には効果をもたせるための声かけを積極的に行うようにする。 ・良くなったところを具体的にほめるなど、児童への前向きな声かけは、今後も続けていく。		